

(様式1) 地域生活支援拠点等の機能・運営状況の評価に係る総括表

◆ 貴市町村の地域生活支援拠点等の目指している姿
障がい児者が住み慣れた地域での生活を安心して継続できる状態。

◆ 第6期障害福祉計画	(令和3年度～令和5年度)における地域生活支援拠点等の目標について			
	令和5年度末の 地域生活支援拠点整備数	運用状況の検証・検討回数		
		障害福祉計画の1年目 (令和3年度)	障害福祉計画の2年目 (令和4年度)	障害福祉計画の3年目 (令和5年度)
目標値	1箇所	年1回	年1回	年1回

障害福祉計画の1年目

地域生活支援拠点等の機能・運営状況の評価に係る総括

I. 地域生活支援拠点等の機能に関する評価指標				
(a) 【要支援者の事前把握及び体制】 緊急対応など支援が必要となる障害者・障害児（強度行動障害者や医療的ケアが必要な重症心身障害者、潜在的要支援者等）の事前把握・登録・名簿管理、関係機関との情報共有	【要支援者の事前把握】の整備や運用に関する目標 ※目指している姿・目標	障害福祉計画の1年目 (令和3年度) ※できる限り数値目標も	障害福祉計画の2年目 (令和4年度) ※できる限り数値目標も	障害福祉計画の3年目 (令和5年度) ※できる限り数値目標も
	支援が必要な者を把握している	医療的ケア児者を把握している	医療的ケア児者を把握している 強度行動障がい児者を把握している	医療的ケア児者を把握している 強度行動障がい児者を把握している
	コアメンバー（整備主体である市町村の担当者や拠点コーディネーター、地域生活支援拠点等に位置付けられている機関の管理者等）による自己評価		協議会等の会議体に参加している障害者等や家族、地域の関係者などによる評価（協議会等による評価）	
	◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない） ブルダウン選択☞ 一定程度できている ※様式2の詳細の評価を踏まえて評価すること		◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない） ブルダウン選択☞ 一定程度できている ※様式2の詳細の評価を踏まえて評価すること	
	◇現状・課題に係る評価（自由記述） ※中間目標（障害福祉計画の1年目）を踏まえて評価すること 医療的ケアが必要な障がい児者は協議会医療的ケア支援に係る検討会で把握及び事例検討等を行っている。		◇現状・課題に係る評価（自由記述） ※中間目標（障害福祉計画の1年目）を踏まえて評価すること 医療的ケアが必要な障がい児者は協議会医療的ケア支援に係る検討会で把握及び事例検討等を行っている。	
	◇今後の対応等（自由記述） 各個別ケースの検討を踏まえ必要な支援を把握し、必要な地域資源の開発に努める。 なお、登録等の制度は個人情報保護条例との関係も踏まえ、現時点で実施する予定はない。		◇今後の対応等（自由記述） 各個別ケースの検討を踏まえ必要な支援を把握し、必要な地域資源の開発に努める。 拠点コーディネーターについては、現状基幹相談支援センターが実質的にその役割を担っているところ、基幹相談支援センターの本来業務への負担もあることから別で配置することを今後の検討課題とする。 なお、登録等の制度は個人情報保護条例との関係も踏まえ、受入側事業所としてのニーズもあることから、実施の有無、実施する場合の仕組みについて検討する。	

(b) 【相談機能】 把握した緊急対応など支援が必要な障害者・障害児からの緊急時を含む相談体制の確保	【相談機能】の整備や運用に関する目標 ※目指している姿・目標	障害福祉計画の1年目 (令和3年度) ※できる限り数値目標も	障害福祉計画の2年目 (令和4年度) ※できる限り数値目標も	障害福祉計画の3年目 (令和5年度) ※できる限り数値目標も
	各事業所及び各相談支援事業所と基幹相談支援事業所、行政との連携を深化させ、緊急時の事前準備に努める。	緊急時・災害時対応プランの運用を開始し、緊急対応の事前準備を行う。	緊急時・災害時対応プラン運用により、緊急対応の事前準備を行う。	緊急時・災害時対応プラン運用により、緊急対応の事前準備を行う。
	コアメンバー（整備主体である市町村の担当者や拠点コーディネーター、地域生活支援拠点等に位置付けられている機関の管理者等）による自己評価	協議会等の会議体に参加している障害者等や家族、地域の関係者などによる評価（協議会等による評価）		
	◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☑ 一定程度できている ※様式2の詳細の評価を踏まえて評価すること	◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☑ 一定程度できている ※様式2の詳細の評価を踏まえて評価すること		
	◇現状・課題に係る評価（自由記述） ※中間目標（障害福祉計画の1年目）を踏まえて評価すること	◇現状・課題に係る評価（自由記述） ※中間目標（障害福祉計画の1年目）を踏まえて評価すること		
	各相談支援事業所の協力により、緊急時・災害時対応プランの運用を開始した。	各相談支援事業所の協力により、緊急時・災害時対応プランの運用を開始した。		
◇今後の対応等（自由記述）	◇今後の対応等（自由記述）			
緊急対応は障がい当事者及び家族を含む各関係人の自覚、協力を必要とするため、当該プランの啓発により環境整備をしていく。	緊急対応は障がい当事者及び家族を含む各関係人の自覚、協力を必要とするため、当該プランの啓発により環境整備をしていく。また、サービスを利用していない方にも配慮した相談体制の周知、広報を行う。			
(c) 【緊急時の受け入れ・対応】 把握した緊急対応など支援が必要な障害者・障害児からの緊急時の受け入れ先の確保	【緊急時の受け入れ・対応】の整備や運用に関する目標 ※目指している姿・目標	障害福祉計画の1年目 (令和3年度) ※できる限り数値目標も	障害福祉計画の2年目 (令和4年度) ※できる限り数値目標も	障害福祉計画の3年目 (令和5年度) ※できる限り数値目標も
	緊急時には各関係人の協力のもと受け入れ先の確保に努める。	緊急時対応可能な受け入れ先を確保する。	緊急時対応可能な受け入れ先を確保する。	緊急時対応可能な受け入れ先を確保する。
	コアメンバー（整備主体である市町村の担当者や拠点コーディネーター、地域生活支援拠点等に位置付けられている機関の管理者等）による自己評価	協議会等の会議体に参加している障害者等や家族、地域の関係者などによる評価（協議会等による評価）		
	◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☑ 一定程度できている ※様式2の詳細の評価を踏まえて評価すること	◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☑ 一定程度できている ※様式2の詳細の評価を踏まえて評価すること		
	◇現状・課題に係る評価（自由記述） ※中間目標（障害福祉計画の1年目）を踏まえて評価すること	◇現状・課題に係る評価（自由記述） ※中間目標（障害福祉計画の1年目）を踏まえて評価すること		
	障がい福祉サービス等（短期入所等）により対応が困難な場合に措置する緊急ショートステイ事業を実施し、受け入れ先となる事業所と協定を締結している。	障がい福祉サービス等（短期入所等）により対応が困難な場合に措置する緊急ショートステイ事業を実施し、受け入れ先となる事業所と協定を締結している。		
◇今後の対応等（自由記述）	◇今後の対応等（自由記述）			
新型コロナの状況も踏まえ、協定先を増やすことを検討する。	新型コロナの状況も踏まえ、協定先を増やすことを検討する。「緊急時」の該当基準や対応マニュアル、フローについてもシステムとして整理していく必要がある。			

(d) 【地域移行のニーズ把握】 障害者等の入所施設や精神科病院等からの地域生活への移行や地域生活の継続についてのニーズの把握	【地域移行のニーズ把握】の整備や運用に関する目標 ※目指している姿・目標	障害福祉計画の1年目 (令和3年度) ※できる限り数値目標も	障害福祉計画の2年目 (令和4年度) ※できる限り数値目標も	障害福祉計画の3年目 (令和5年度) ※できる限り数値目標も
	入院、入所している障がい者が自らの生活を自己決定できる状態。	入院、入所している障がい者のニーズの把握及び地域生活に係る情報提供を行う。	入院、入所している障がい者のニーズの把握及び地域生活に係る情報提供を行う。	入院、入所している障がい者のニーズの把握及び地域生活に係る情報提供を行う。
	コアメンバー（整備主体である市町村の担当者や拠点コーディネーター、地域生活支援拠点等に位置付けられている機関の管理者等）による自己評価		協議会等の会議体に参加している障害者等や家族、地域の関係者などによる評価（協議会等による評価）	
	◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☑ 一定程度できている ※様式2の詳細の評価を踏まえて評価すること		◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☑ 一定程度できている ※様式2の詳細の評価を踏まえて評価すること	
	◇現状・課題に係る評価（自由記述） ※中間目標（障害福祉計画の1年目）を踏まえて評価すること 各相談支援専門員の協力を得て、長期入所者に係るアンケート調査を実施中。長期入院者への訪問による面談も実施予定。		◇現状・課題に係る評価（自由記述） ※中間目標（障害福祉計画の1年目）を踏まえて評価すること 各相談支援専門員の協力を得て、長期入所者に係るアンケート調査を実施中。長期入院者への訪問による面談も実施予定。	
	◇今後の対応等（自由記述） 入院、入所している障がい者のニーズの把握及び地域生活に係る情報提供を継続して実施し、必要な地域資源の開発に努める。		◇今後の対応等（自由記述） 入院、入所している障がい者のニーズの把握及び地域生活に係る情報提供を継続して実施し、必要な地域資源の開発に努める。	
(e) 【体験の機会・場の確保】 把握した地域生活への移行や継続のニーズを踏まえた地域生活の体験宿泊等の実施	【体験の機会・場】の整備や運用に関する目標 ※目指している姿・目標	障害福祉計画の1年目 (令和3年度) ※できる限り数値目標も	障害福祉計画の2年目 (令和4年度) ※できる限り数値目標も	障害福祉計画の3年目 (令和5年度) ※できる限り数値目標も
	親元等を離れた自立した生活を希望する障がい児者が当該生活の体験を行うことができる。	親元等を離れた自立した生活を希望する障がい児者が当該生活の体験を行うことができる。	親元等を離れた自立した生活を希望する障がい児者が当該生活の体験を行うことができる。	親元等を離れた自立した生活を希望する障がい児者が当該生活の体験を行うことができる。
	コアメンバー（整備主体である市町村の担当者や拠点コーディネーター、地域生活支援拠点等に位置付けられている機関の管理者等）による自己評価		協議会等の会議体に参加している障害者等や家族、地域の関係者などによる評価（協議会等による評価）	
	◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☑ 一定程度できている ※様式2の詳細の評価を踏まえて評価すること		◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☑ 一定程度できている ※様式2の詳細の評価を踏まえて評価すること	
	◇現状・課題に係る評価（自由記述） ※中間目標（障害福祉計画の1年目）を踏まえて評価すること 地域生活支援事業の体験的宿泊事業により、宿泊体験の機会が提供される。		◇現状・課題に係る評価（自由記述） ※中間目標（障害福祉計画の1年目）を踏まえて評価すること 地域生活支援事業の体験的宿泊事業により、宿泊体験の機会が提供される。	
	◇今後の対応等（自由記述） 事業実施可能な事業の増加を図っていく。また、より一人暮らしに近い形での事業実施を行えるよう環境整備を行い、グループホームから一人暮らしへの移行も促進していく。		◇今後の対応等（自由記述） 事業実施可能な事業の増加を図っていく。また、より一人暮らしに近い形での事業実施を行えるよう環境整備を行い、グループホームから一人暮らしへの移行も促進していく。	

(f) 【専門的人材の確保・養成】 専門性の確保に向けた取組の実施	【専門的人材の確保・養成】 の整備や運用に関する目標 ※目指している姿・目標	障害福祉計画の1年目 (令和3年度) ※できる限り数値目標も	障害福祉計画の2年目 (令和4年度) ※できる限り数値目標も	障害福祉計画の3年目 (令和5年度) ※できる限り数値目標も
	福祉職員の人材確保に向けた活動と各専門的な技能の習得等に向けた活動を並行して行い、福祉職員の質と量の向上が図られる。	学生向け広報活動、現場向け職員研修、強度行動障害支援者養成研修等を実施する。	学生向け広報活動、現場向け職員研修、強度行動障害支援者養成研修等を実施する。	学生向け広報活動、現場向け職員研修、強度行動障害支援者養成研修等を実施する。
	コアメンバー（整備主体である市町村の担当者や拠点コーディネーター、地域生活支援拠点等に位置付けられている機関の管理者等）による自己評価		協議会等の会議体に参加している障害者等や家族、地域の関係者などによる評価（協議会等による評価）	
	◇充足度（十分にできている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☑ 一定程度できている ※様式2の詳細の評価を踏まえて評価すること	◇充足度（十分にできている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☑ 一定程度できている ※様式2の詳細の評価を踏まえて評価すること		
	◇現状・課題に係る評価（自由記述） ※中間目標（障害福祉計画の1年目）を踏まえて評価すること 協議会を中心に学生への福祉職に係る広報等、入職数年目程度の職員を対象とした現場向け職員研修、強度行動障害支援者養成研修等を実施している。	◇現状・課題に係る評価（自由記述） ※中間目標（障害福祉計画の1年目）を踏まえて評価すること 協議会を中心に学生への福祉職に係る広報等、入職数年目程度の職員を対象とした現場向け職員研修、強度行動障害支援者養成研修等を実施している。		
	◇今後の対応等（自由記述） 個別の事業所単独での活動が困難な福祉職員全体の人材確保に係る活動や専門的研修等を実施していく。	◇今後の対応等（自由記述） 個別の事業所単独での活動が困難な福祉職員全体の人材確保に係る活動や専門的研修等を実施していく。		
(g) 【地域の体制づくり】 把握した障害者・障害児の地域生活のニーズを踏まえた地域の体制づくりの実施	【地域の体制づくり】 の整備や運用に関する目標 ※目指している姿・目標	障害福祉計画の1年目 (令和3年度) ※できる限り数値目標も	障害福祉計画の2年目 (令和4年度) ※できる限り数値目標も	障害福祉計画の3年目 (令和5年度) ※できる限り数値目標も
	協議会により地域生活のニーズを踏まえた地域体制づくりの推進が行われている。	各専門部会の活動により、ニーズの把握と課題抽出を実施し、運営会議や本会により議論していく。	各専門部会の活動により、ニーズの把握と課題抽出を実施し、運営会議や本会により議論していく。	各専門部会の活動により、ニーズの把握と課題抽出を実施し、運営会議や本会により議論していく。
	コアメンバー（整備主体である市町村の担当者や拠点コーディネーター、地域生活支援拠点等に位置付けられている機関の管理者等）による自己評価		協議会等の会議体に参加している障害者等や家族、地域の関係者などによる評価（協議会等による評価）	
	◇充足度（十分にできている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☑ 一定程度できている ※様式2の詳細の評価を踏まえて評価すること	◇充足度（十分にできている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☑ 一定程度できている ※様式2の詳細の評価を踏まえて評価すること		
	◇現状・課題に係る評価（自由記述） ※中間目標（障害福祉計画の1年目）を踏まえて評価すること 協議会運営会議を活動の推進エンジンとして各課題等を議論している。	◇現状・課題に係る評価（自由記述） ※中間目標（障害福祉計画の1年目）を踏まえて評価すること 協議会運営会議を活動の推進エンジンとして各課題等を議論している。		
	◇今後の対応等（自由記述） 各専門部会等からも積極的な発信に努めていく。また、障がい福祉以外の分野との交流、意見交換等にも努めていく。	◇今後の対応等（自由記述） 各専門部会等からも積極的な発信に努めていく。また、障がい福祉以外の分野との交流、意見交換等にも努めていく。サービス未利用者も踏まえたニーズ把握、体制整備に努める。		

II. 地域生活支援拠点等の運営状況に関する評価指標

(h) 【拠点等の運営状況】 地域住民に対する周知・広報ならび に関係機関との連携体制の構築	【拠点等の運営状況】 の整備や運用に関する目標 ※目指している姿・目標	障害福祉計画の1年目 (令和3年度) ※できる限り数値目標も	障害福祉計画の2年目 (令和4年度) ※できる限り数値目標も	障害福祉計画の3年目 (令和5年度) ※できる限り数値目標も
	障がい当事者が拠点等の概要を知り、安心して生活することができる。	協議会に参加している関係団体や市HPをとおして広報等を行っていく。	協議会に参加している関係団体や市HPをとおして広報等を行っていく。	協議会に参加している関係団体や市HPをとおして広報等を行っていく。
	コアメンバー（整備主体である市町村の担当者や拠点コーディネーター、地域生活支援拠点等に位置付けられている機関の管理者等）による自己評価		協議会等の会議体に参加している障害者等や家族、地域の関係者などによる評価（協議会等による評価）	
	◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☑ 一定程度できている ※様式2の詳細の評価を踏まえて評価すること		◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない） プルダウン選択☑ 一定程度できている ※様式2の詳細の評価を踏まえて評価すること	
	◇現状・課題に係る評価（自由記述） ※中間目標（障害福祉計画の1年目）を踏まえて評価すること		◇現状・課題に係る評価（自由記述） ※中間目標（障害福祉計画の1年目）を踏まえて評価すること	
	拠点等に係る概念はわかりづらい側面があり、周知が図られているとは言い難い。		拠点等に係る概念はわかりづらい側面があり、周知が図られているとは言い難い。	
	◇今後の対応等（自由記述） 拠点等の概念を周知するのではなく、関係する各事業等の広報に努めることで、半田市の障がい児者支援の認知を図っていく。		◇今後の対応等（自由記述） 拠点等の概念を周知するのではなく、関係する各事業等の広報に努めることで、半田市の障がい児者支援の認知を図っていく。	

備考欄：地域生活への移行に関する第6期障害福祉計画の成果目標（計画期間が終了する令和5年度末の目標）

◆令和元年度末時点の施設入所者のうち、地域生活への移行者数（国の指針：令和元年度末施設入所者の6%以上）

（灰色部分にご記入ください）

令和元年度（2019年度）末時点の施設入所者数（A）	47人
【目標値】令和5年度（2023年度）末時点の地域生活移行者数（B）	5人
令和元年度末時点の施設入所者のうち、地域生活移行者の割合（B/A）	10.6%

目標達成のための方策	入所者への定期的な面談等を通して地域生活に向けた意向確認を行い、地域生活体験の活用など新たな生活を具体的にイメージしていくための情報発信を行う。
------------	--

	令和3年度（2021年度）	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）
【実績値】地域生活移行者数（C）	1人		
【実績値】地域生活移行者数の割合（C/A）	2.1%	0.0%	0.0%
【実績値】地域生活移行者数の累積値（D）	1人	1人	1人
【実績値】地域生活移行者数の累積値に占める割合（D/A）	2.1%	2.1%	2.1%

◆令和元年度末時点と比較した施設入所者の減少数（国の指針：令和元年度末施設入所者の1.6%以上削減）

令和元年度（2019年度）末時点の施設入所者数（A）	47人
【目標値】令和5年度（2023年度）末時点の施設入所者の減少見込数（B）	2人
令和元年度末時点の施設入所者のうち、施設入所者の減少見込の割（B/A）	4.3%

目標達成のための方策	入所者への定期的な面談等を通して地域生活に向けた意向確認を行い、地域生活体験の活用など新たな生活を具体的にイメージしていくための情報発信を行う。
------------	--

	令和3年度（2021年度）	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）
【実績値】施設入所者の減少数（C）	1人		
【実績値】施設入所者の減少割合（C/A）	2.1%	0.0%	0.0%
【実績値】施設入所者の減少数の累積値（D）	1人	1人	1人
【実績値】施設入所者の減少数の累積値に占める割合（D/A）	2.1%	2.1%	2.1%

◆精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築

630調査	令和元年（2019年）	令和2年（2020年）	令和3年（2021年）
精神病床における急性期・回復期・慢性期入院患者数（合計）	人	225人	人
3ヶ月未満（急性期）	人	48人	人
	（うち）65歳未満	25人	
	（うち）65歳以上	23人	
3ヶ月以上1年未満	人	30人	人
	（うち）65歳未満	19人	
	（うち）65歳以上	11人	
1年以上	人	147人	人
	（うち）65歳未満	71人	
	（うち）65歳以上	76人	

※実績値の記入方法

- インターネットで「リムラッド」を検索し、ReMHRAD - 地域精神保健福祉資源分析データベース (<https://remhrad.jp/>) にアクセスする。
- トップページで「在・退院者の状況」>「在院」を選択。都道府県を選択し、「自治体を指定」で自治体を選択する。
- 「年齢区分」で65歳未満/65歳以上、入院期間をそれぞれ選択すると各期間での入院者数が示される。

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」についての目標値等 ※地域移行支援給付目標値、協議の場の開催回数等、貴自治体の目標内容を記載してください。	協議の場の開催回数年3回、令和5年度中の精神障がい者の地域移行支援利用者数9名
---	---